

## 2024年 春季参加報告書

### 参加プログラム：ディーキン大学

#### 参加時の学年：2年、学部：人文、学科：英語英米文化

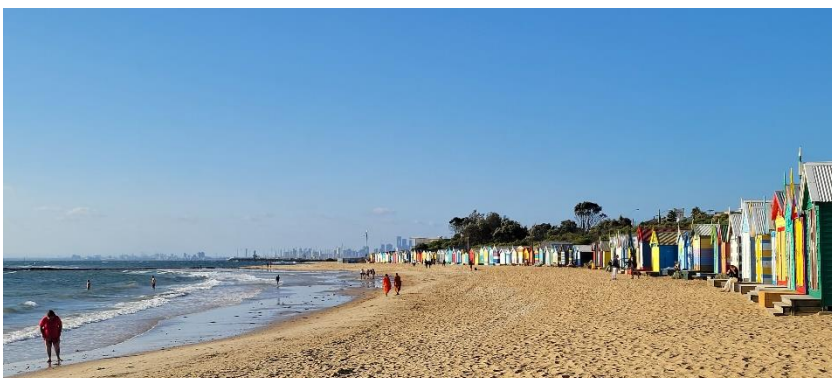
一ヶ月間という短い間では、正直なところ、英語力の向上は見込めなかったと思っていました。しかしながら、予想とは裏腹に、結論からいえば、コミュニケーションの観点からの英語力は確りと向上したと言えます。具体的にいえば、会話への積極性です。自分とはにかく文法は置いておいて、ホストファミリーの方や、大学の講師、イベントに参加している現地学生になんでもいいから話しかけることにしていました。今までは、特段話すこともなかったのですが、話すことを意識している内に、誰かや何かに対して、興味や関心を持つようになりました。これがあるのとないのでは、会話をしようという気持ちの有無に絶対的に影響してしまうので、初歩的なことですが、最も必要なことだと、痛感しました。また、オーストラリアでの生活では、異文化の体験による、自分の視野が広がったことを実感しました。町の治安や、人々の人柄も良く、安心できる町のなかで、観光や、実習にしっかりと力をいれることができました。大学のカリキュラムとして、歴史的建造物や、博物館への校外学習などが開かれており、加えて自然遺産などに行くツアー等も充実していた為、短期間のなかで、様々なものを見て、触れて、考えることができたと思います。また、催されていたイベントのなかでも、

最も印象的だったのは、セントキルダフェスティバルというイベントです。メルボルン南、セントキルダビーチ沿いに展開し、ミュージシャンによる生演奏、ビーチバレーの試合、ダンス、露店、アトラクション等が並ぶ大規模なものでした。しかしながら、入場料は無料で、サービスのドリンク等ももらえました。このような行事は、日本ではまずないので、オーストラリアだから体験できたものの一つだと思います。



ディーキン大学の授業では、主に、英文法とライティングの授業を進めていくことになりました。文法に関しては、現在形や過去形から現在完了形や現在完了進行形など、扱うもの自体は中学で習うものでしたが、どちらかといえば、その使い分けやニュアンスを詰めていくような授業で、実用的だと感じました。また、ライティングでは、自分の意見を立場にたって書かされるエッセイ方式が主で、こちらはスタンダードなものだったと思います。最終課題として、グループにわかれた調べ学習のプレゼンテーション、及びそれに付随した作問を行いました。こちらはスピーキング、発表の仕方を重視しており、オーストラリアについて学術的にも学ぶ機会となりました。クラス構成としては、17人程度の生徒が全員日本人であり、それぞれの英語力にはかなりバラつきがあるように感じました。大学講師は、基本的にフレンドリーで、聞き取りやすい英語を話しており、その点は実際の会話の英語というより、どの生徒も取りこぼさない配慮だと感じました。先ほども述べましたが、担当の講師とは積極的に会話、発言をしました。授業の内容や指示を理解できていない他生徒に説明をするなど、授業の円滑化に貢献できたと思います。

最後に、今後の目標として考えられたのが、知識のアウトプットです。この一ヶ月間は、とにかく自分の持ち得る知識を活用して、



とにかく話して、とにかく書くことが多かったのですが、やはり使用した単語や表現は忘れ難いものになりました。また、その場面場面に適切なかどうかを判断、学習することも含まれており、個人的に効率良く学習することができると感じました。その点を考慮して、これからの学習に置いて、自らMCVなど、機会を作ることを強く意識することとしました。